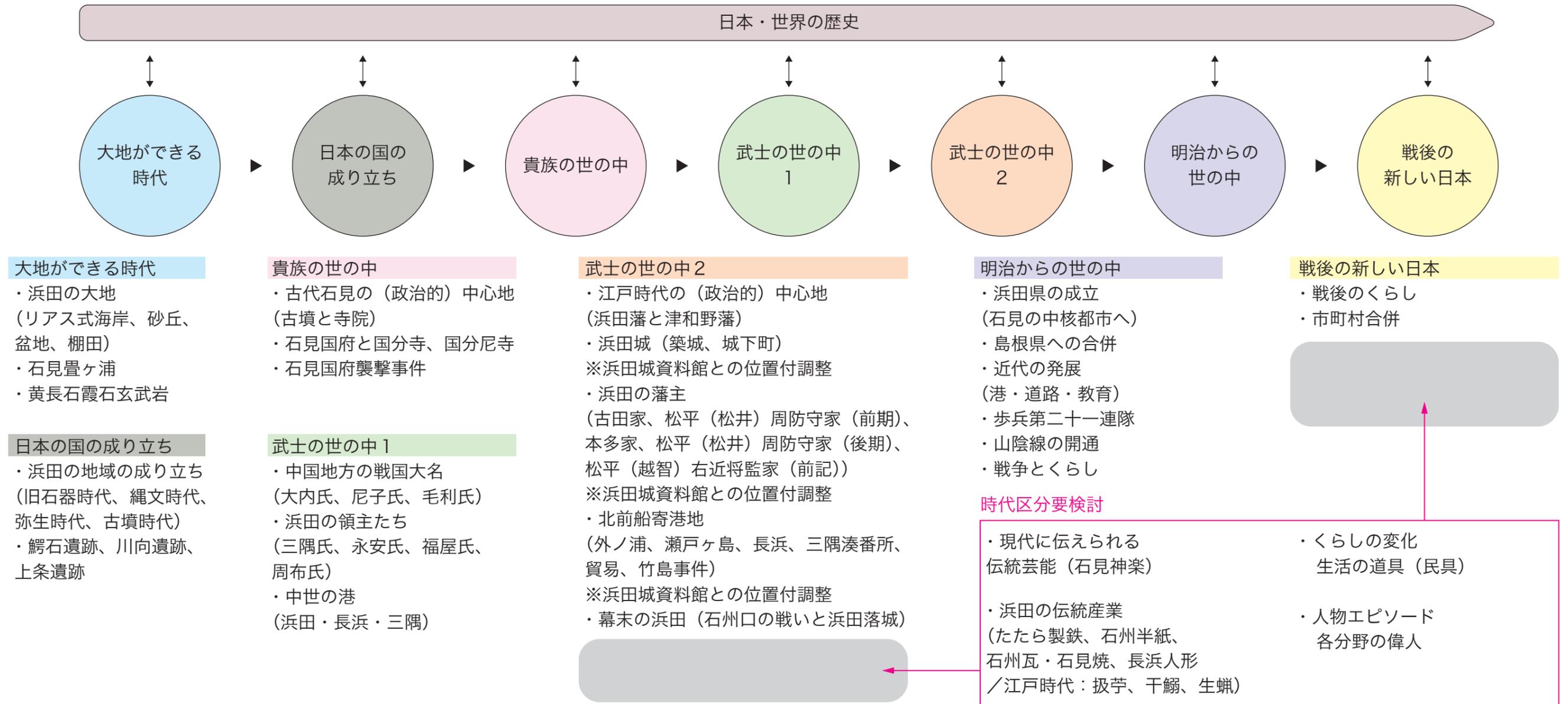


「ふるさと浜田の歩みをたどる、歴史郷育ミュージアム」

展示構成（ラフ）

浜田市の歴史読本「ふるさと浜田の歩み」の構成を踏襲。地形のなりたちから貴族・武士の時代、そして現代へと、時間軸で浜田市の足跡をたどる展示構成。日本・世界の歴史と浜田の歴史を照らし合わせながら学ぶことによって、歴史の中での浜田の特徴と市の移り変わりを知る。



※取り扱う展示項目は例、今後詳細検討。

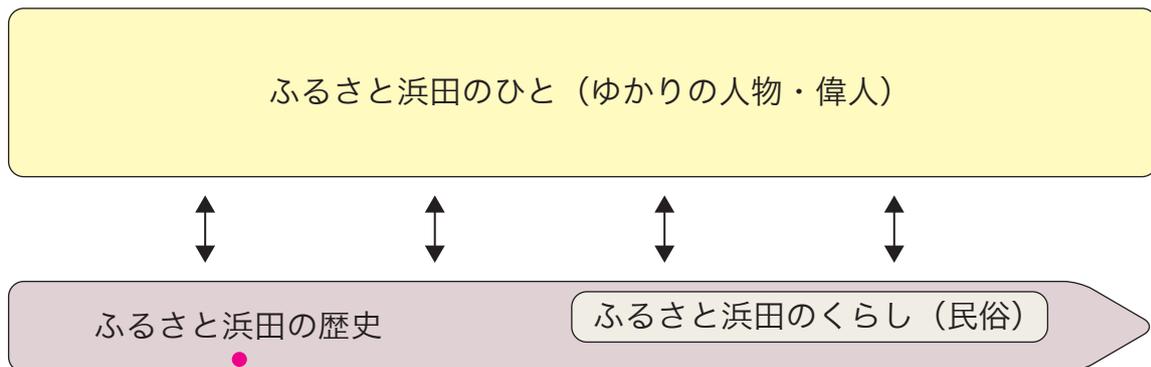
メリット・デメリット

- 時系列が理解しやすい。
- 教科書と照らし合わせやすく、子どもたちが学習に活用しやすい。
- 全国・グローバルな視点をもって地元を学ぶことができる
- ▲一般的な歴史の説明になりがち（「浜田らしさ」という面では弱い）なので展示内容・手法に工夫が必要。

「人から学ぶ、ふるさと浜田の誇り醸成ミュージアム」

展示構成（ラフ）

歴史文化保存展示施設の整備方針にある、「歴史」・「民俗」・「偉人」という区分を踏襲。なかでも「偉人」にフォーカスを当てて、その背景にある時代の流れも学ぶと同時に郷土愛を育む展示構成。



時系列の歴史展示については
A案のダイジェスト版を検討

ふるさと浜田のひと（ゆかりの人物・偉人）

- ・柿本人麻呂
- ・島村抱月

『「歴史文化保存展示施設」の整備方針』に記載

- | | | | | |
|-----------|--------|----------|--------|----------|
| ・上迫忠夫 | ・梶目甚一 | ・小松原彌市 | ・豊原観一郎 | ・右田古文 |
| ・大達茂雄 | ・片岡ヒデ | ・佐々木丈左衛門 | ・豊原喜一郎 | ・三隅兼連 |
| ・大島幾太郎 | ・川上清吉 | ・佐々木満寿 | ・能海寛 | ・山根俊久 |
| ・大橋仰軒 | ・木村晩翠 | ・佐々田懋 | ・橋本明治 | ・湯浅啓温 |
| ・岡本重威 | ・栗栖澤子 | ・竹本正男 | ・服部之總 | |
| ・岡本砂右衛門勝重 | ・栗栖太三郎 | ・俵國一 | ・藤田重一 | ・古田重治 |
| ・岡本甚左衛門 | ・厨川千江 | ・俵孫一 | ・細川勝三 | ・今津屋八右衛門 |
| ・廓英法師 | ・小石雄治 | ・寺田八百助 | ・丸川久俊 | |

※浜田市 HP「浜田の人物誌」ほかより抜粋

その他「浜田市の人物読本 ふるさとの50人」などより人選を検討

※取り扱う展示項目は例、今後詳細検討。

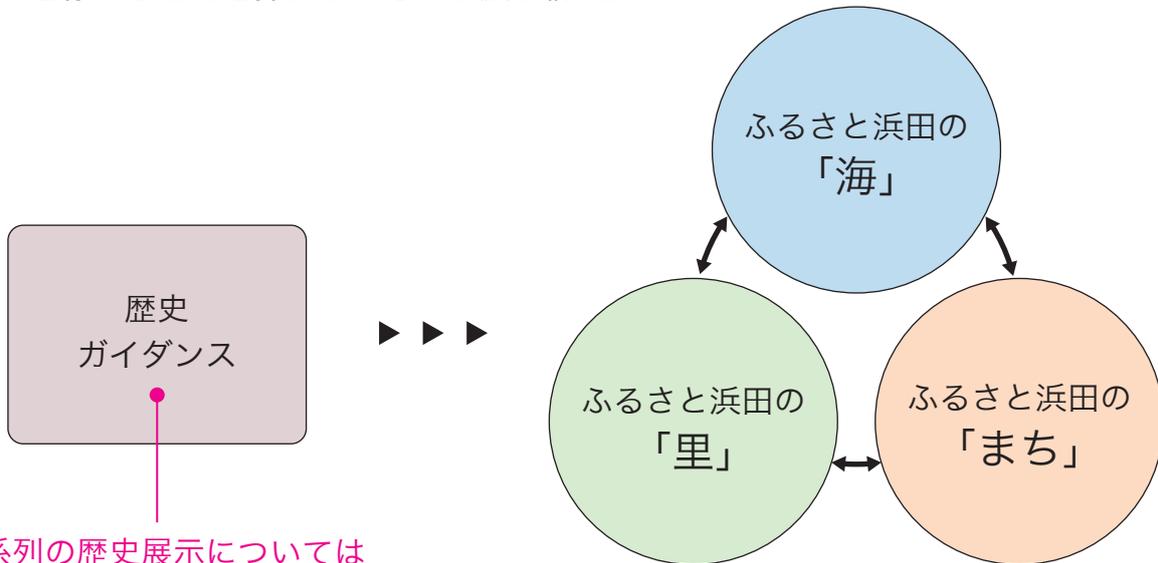
メリット・デメリット

- 偉人たちの「考え方」から歴史分野に限らず学びを得ることができる。
- ゆかりのある人物や偉人が多いという浜田の特徴を表す施設づくりが可能。
- ▲時代によって偏りが生じ、授業内容と連動した理解がしづらい。

「ふるさと浜田の魅力、発見・探究ミュージアム」

展示構成（ラフ）

浜田の歴史・文化を「海」・「まち」・「里」という浜田ならではの3つの切り口で展示構成を再編集。自分にとって身近な「ふるさと」を学びの入り口に、それぞれの興味で浜田を様々な魅力を探究してもらう展示構成。



時系列の歴史展示については
A案のダイジェスト版を検討

ふるさと浜田の「海」

- ・海の道（古代・中世・近世・現代の海の道と荷）
- ・みなと文化（産業・芸能・信仰・食）
- ・人物エピソード（密貿易・船問屋・漁法開発・築港）

ふるさと浜田の「里」

- ・ものづくりの里
(たたら製鉄・石州半紙・石州瓦・石見焼)
- ・里の文化（石見神楽・長浜人形）
- ・命をつないだサツマイモ
(飢饉のサツマイモ栽培)
- ・人物エピソード（神楽寄与者・耕地整理）

ふるさと浜田の「まち」

- ・城のまち
(浜田藩・津和野藩・浜田城・藩札・合併)
- ・城下町文化（城下町構成・商人町・参勤交代）
- ・江戸時代の教育
(藩校「長善館」・「道学館」・寺子屋)
- ・人物エピソード
(藩主・築城功労者・藩地図作成者)

※取り扱う展示項目は例、今後詳細検討。

メリット・デメリット

- 「ふるさと浜田」という切り口で、子どもたちが地元の歴史・文化を自分ごと化しやすい。
- 他の自治体と異なるオリジナリティのある施設（浜田ならではの資料館づくりにつながる）。
- ▲歴史の概要を示す展示を設けるなど、時間軸での理解を促すために工夫が必要。

a案

常設展示・企画展示室（スペース）として区切った構成とする。



○常設展示を固定しガイダンスの役割を持たせることで、歴史・文化の基礎的な部分を確実に伝えることができる。

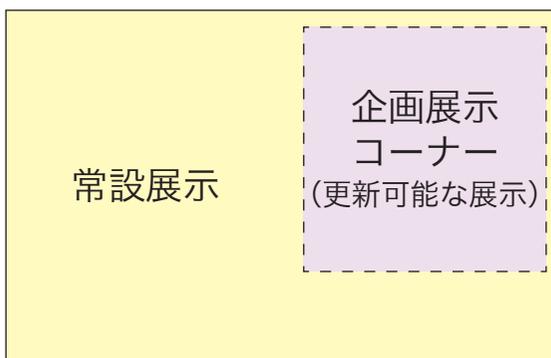
○ゾーニングとして区切ることで、テーマを絞っての一定規模の企画展が可能。

▲企画展示に一定の面積を割くため、常設展示の面積に制約が生まれる。

▲連続性はなく、分断して見える。

b案

常設展示の一部を期間を決めて更新可能な仕様とする。



○常設展示を固定する一方で一部が随時更新されていくことで、常設展示も含めてのリピーター増につながる。

▲展示される資料に制約が発生する。

c案

常設展示は設けず、企画展示のみのギャラリーのような活用とする。



○現状収蔵されている展示資料の多くを有効に活用することができる。

▲展示替え、毎回の企画展の企画など運用上の負担がかなり大きい。

→限られた運営人員で企画展を運営していくのは困難。